

○タイムスの日露

戦争批評 (十三の續き)

西比利亞鐵道の無力

ヨーロッパのウオッシュラット(獨逸軍車)は例の如く細々しき事情を列擧し且つ獨逸軍車批評家一流の精神を以て露國交通線路の不安心にして且つ不十分なるものに關し不深切にも今に至りて漸く此タイムスの破綻前に述べたる所を反覆し且つ保證し居れり露國が斯く振き差し成らざる場合に陥るに至らざりし前ウオッシュラットにして斯の如き假借なき批評を加へたりしならんは寧ろ露國に取て深切なりしなるべし何となれば英國批評家の之が結論に對するよりも聖彼得堡は會に一層の注意を以て之に對したるべきを以てなり純理的論究として之が數字を計算したる後獨逸雜誌は即ち論結して曰く一日七列車を發すべきものと一切の事情良好なるに於ては絶東に於ける露國の兵數は二月十日より四月四日に至る間即ち八週日の期間に於て七萬五千の増員を行ふを得べし恰も一日約千四百人とのに要する大行李を輸送し得る割合なりと

の心を安撫せしむるに足らず然るに實際問題の研究に對する真面目の說なりとして此計算更に其價值を有せず一日七列車と云ふが如きは到底望むべきものとわらうして假に之を其半に見積まらば略ぼ實數に近きを得べし其上最早や久しきを待たざるべき海面の閉塞と且つは封鎖の宣言は一部として正當に完成されたる箇所なき此鐵道に對し過重の負擔を行はしむるに至るべきものと其再び茲に之を反覆し餘かざるべからざる所なりと陸軍、海軍、守備隊の軍需品乃至非戰鬥民の需要する所にして盡く之を合すれば著しき巨額に達すべき此等一切の物品は從來海上よりして絶東に於ける露人の許に輸送されたるものなり此門戸にして既に一たび閉鎖されたる以上は總督の命令として其の如き形勢に應ずべき何れの準備をも未だ行はしめたるものと無かりしを以て商人に亦欠乏の日に應ずる必要なる時落を作るの計畫更に存したるなく露國は結局非常なる割合と且つ非常なる困難を帯びたる恐慌に據すべきを疑はず

若し又氣候の備所となり稱して曰へり延若は恐るべし予は陸上露國司令部に遠くは六週日乃至三箇月を要するに至るべきを豫期す而も忠死の覺悟を有したる後ならざるべからず露國の交通線路は最早や懲りくなり海陸に於ける露國の設備にして露國政府の示す如き事實と數字とに一致し又露國を欺き得たる彼等の報告と相一致するに於ては我等は實に露國が武器を執つて海中に其一無敵なる敵一を排倒し得るを見んものと期す然れども是迄續讀したりたる戰闘史の毎頁は一露國の無力にして處置宜しきを得ず又經理を誤れるの實を現さるるなり我等は之に對して轉り再び千八百七十八年の露國を見るの感なき能はず當時露帝の愕然として其後を繼まし官金を私盜するの其連累頗る多く有力なる人名の亦之に關聯するあるを見て遂に之が罪人の調査を停止したるの現状彷彿として眼にあらが如し

然れども我等は反露を有せざる又萬全の推測を試みんことを欲するが爲めは露國政府の報告を以て其文面通り之を濫用すべしとて乃ち採用せざるべからず同時に我等は後述のクロバトヤン自ら絶東に遊遊し準備よく遊遊せりと宣言したる時に少くも驚く駭嘆し居らざりしことを思はざるべからず然かも日本た

大分

るもの其思ひしよりも其事業の遂に易なりし
を發見するは即ち可なり敵を輕視するよりも
之を見るも重きに失するは少くも其に可なり
りせず曾て英國新聞紙の密に露國に警告する
所ありたるに對し三週日前ノゾオウレー
アは論じて曰く「彼等は幽靈を以て我等を
威さんと欲す」と然れども日本の幽靈の如
き不氣味にして且つ實體あるは實に露國の行
進に立ち現れたるものとあらざるべし我等は漫
ろに有名なるチエールの首を想起すチエール
は曾て千八百七十年に入るの前人の普魯西軍
隊の實力につき告ぐるものあるに對して曰く
「可なり」蓋し幻影を見て愕くに過ぎざる
のみ其數字にして果して眞なるに於ては佛國
の命運や又絶望ならざるべからず」と
幽靈と云ひ幻影と云ふは其相背たるや而も
露國の爲めに就りて其醒め来る苦痛の佛國の
如く甚しからざらんことを望まざるべからず
(並項完結)

明治二十七年四月十九日時事

○タイムスの軍事批評 (十四)

戦争批評 (十四)

タイムスの軍事批評家が其二月二十七日の
紙上に論じたる所左の如し

日本海軍の牽制運動

旅順口に於ける日本の行動は之を以て壯烈な
る事件の他の方面に於て進行中なるを表明す
るものなりと爲さるべからず即ち海軍の任
務は露國艦隊をして専ら自家の防線にのみ忙
ならしめんとするものなるべし旅順口の港口
を閉塞せんとする頗る大膽なる計畫の二十三
日夜に於て行はれたるは疑ふべからざる事實
にし港口の通航爲めに妨礙されたるも全く閉
塞するに至らざりしものなりと見るは即ち
公平なる斷定なるに似たり東郷提督の率ゐる
日本艦隊は明に旅順口に對して嚴密の監視を
加へ居れるものにしてブラツク將軍は二十四
日の夜再び之に攻撃の行はれたることを報せ
り但し敵の行動に就ては別に詳述する所あ
るなし此等の計畫は日本が欲望したりし如く
に總しや充分に成就せざりしとするも敵の注
意を牽制して之を何處までも防禦の位置に束
縛し置くに於て優に海軍の任務を達し得たり
ラレー曾て云へるとあり曰く「我等一たび防

禦の位置に立たしめらるれば權勢即ち終る」と
浦鹽斯德よりの報にして信すべしとせば上
村中將は今北方に於て露國海岸線の沖にあり
此報果して確報なるに於ては之が結果露國海
軍の牽制を受けるものと益々甚だしく即ち陸上
に於て重大なる作戦の將に初められんとする
時期既に切迫せるを知るに足るべし旅順口に
於ける露國艦隊の敵の目に觸るゝものとなく
して海上に出づるを得日本連隊の將に其兵
を揚陸せんとする間際に至り之が集合地に達
するを得るにあらざるよりは日本の計畫に對
して露國の干渉を加へ得べき機運は甚だ少な
きに似たり何となればノーヴィツクの修築既
に完了したるが如くなり露國艦隊の主力
九日夜の状態に比して聊かたりとも改善し
得たりとの報は唯聖彼得堡に於けるタイムス
通信員より之を聞くのみなるを以てなり

陸兵衝着の地點

第一回の打撃は果して何れに於て下るべきや
其は依然として秘密なり然れども北韓に於け
る兩軍隊の斥候は安州と平壤との中間に於て
相接し戦争無量の此部分第一回激戦の
場に供されんとする状況頗る備れりとす左は
云へ現在に於ては唯一箇師團の兵仁川に上陸
し之に次で同港に發せられんとし其後更に北

方に其上陸地點の移されたるべき他の二箇師
團兵あるを聞くのみ元山は日本人に依りて兵
力を以て占領されたるや否や否として何等の
確證を得ると能はず又大陸に向け日本軍隊の
大部分を輸送する運送船は果して何れの地點
に其針路を執らしめられたるや更に其實情を
物色するも能はざるなり日本兵がポシエツト
灣に上陸したりとの報は昨日の第三版に見え
たり此報は吉林の西に當り奉天哈爾濱間鐵道
の一驛たる寬城子より牛莊に逃げ來りたる英
國宣教師の傳ふる所にして此報に従へば上陸
したる軍隊は琿春に對して其作戦を行ひ長嶺
吉林に向はんとすと云ふ琿春はポシエツト灣
を去る約二十三哩の地にあり左まで其不長な
らざる道路同市より連山の間に蜿蜒して西北
内地に入る此方向に於ける海岸の氷は四月初
旬に至るまで消散するものとすを以てポシエ
ツト灣は目下の氣候に於て大部隊の兵を揚ぐ
るに堪へたる適當の地點にあらず特に内地山
岳重疊して産物乏しく交通不便なる等後期の
戰闘に於て浦鹽斯德攻撃の爲め一時の根據地
に之を使用する外甚だしく要用なる地點なり
とするも能はず然れども哈爾濱より浦鹽斯
德及び旅順に連する鐵道線路を破壊せしめん
が爲め日本の之に其侵入軍の一部隊を上陸せ
しむると亦必無を期せざるなり是れ蓋し今の